



桐

K

I

R

I

目黒学院高等学校同窓会事務局

〒153-8631 東京都目黒区中目黒1-1-50

電話 03-3711-6556

編集発行人 会長 北村 徳章

URL <http://www.meguro.ac.jp/Kiri/>

同窓会創立70周年記念号



現在の校舎本館



昭和20年3月28日 第1回卒業生

総会・懇親会のご案内はウラ表紙にあります

平成26年度会務報告



同窓会会長

きた むら のり あき
北 村 徳 章

(平成2年 3月卒)

同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍のことと御拝察いたします。また、常日頃から同窓会に対しまして、様々なご支援、ご鞭撻をいただき、厚く御礼申し上げます。

先ずは本誌を通して、一年間の経過報告等をさせていただきます。

母校の行事につきましては、例年同様、卒業式・梧林祭に同窓会から代表が出席し、祝意と激励を行ってまいりました。

卒業式後には高校3年間を終えられたPTA主催の「謝恩会」と中学・高校の6年間を終えられた「卒業を祝う会」との両方に、同窓会から代表が出席して祝意を表させていただきました。

本会の会員数も去る3月10日の第67回卒業証書授与式を以て、新たに303名の新会員を迎え、会員総数では31,086名となりました。このうち本年の親子二代に亘る卒業生は1組2名(9頁記載)でありました。

また、例年ご協力をいただいております同窓会賛助会費の納入につきましては、本年も多数の会員からのご賛同と深いご理解をいただき、平成26年度は11頁にご芳名記載のとおり174名の方々から納入を頂きました。

平成26年は25年と比較すると納入者数は19名増となり、新規納入を頂いた方々は33名おりました。

ここに謹んで御礼を申し上げます。この賛助会費は、同窓会運営にとどまらず、在校生への奨学金や、同好会・クラブ活動、梧林祭開催のお祝い金などにも活用させていただいており、皆様方の心温まるお気持ちに大変感謝しております。

既に本誌にてたびたびご案内させていただいておりますが、一口1,000円で全会員を対象にご協力をお願いしております。

本年も、本誌の発送とともに全ての会員に、賛助会費(同窓生年会費)の払込通知票を同封させていただきましたので、会員諸兄のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、口数は任意ですので、お志のある方は、是非とも複数口のご協力を重ねてお願い申し上げます。

さて、本年は本誌最終ページにてご案内させていただいておりますが、3年振りとなる同窓会総会・懇親会を来る7

月25日(土)に新宿のワシントンホテルビル内宴会場「ウエストシティーホール&ウエディングアイ」において開催する予定です。

参加費もリーズナブルな設定とさせて頂いておりますので、会員諸兄におかれましては、友人とお誘い合わせのうえ、奮ってご参加下さいませよう、お願い申し上げます。

また、本年も前回同様に、総会・懇親会の開催日に合わせて、学校側のご協力のもと、学校見学会を開催させていただきます。

久しく母校を訪ねられていない会員の皆様、たまには母校へ足を運ばれてみては如何でしょうか。

皆さんが学んだ頃とは違った風景が見られることと思います。(6頁記載)

多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

おわりに、今後もなお一層、同窓会に対するご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。会員諸兄、母校在校生並びに教職員の皆様方の益々のご健康とご発展をお祈り申し上げて、会務報告とご挨拶といたします。

《訃報》

本同窓会役員として長年にわたりご尽力されてきた須藤昭男副会長(昭和27年卒)が、平成26年8月にご逝去されました。

心から深くお悔やみ申し上げます。



優しさと和をもち
大切な建物を守る

優和デザイン

北村 徳章 (平成2年卒)

∞∞ 目黒学院卒業生の皆様 ∞∞

建物の改修工事など

お気軽にご相談下さい。

〒115-0045

東京都北区赤羽1-66-10 シティ赤羽602

TEL 03-6802-6536

e-mail : yw-design@ksh.biglobe.ne.jp

ご挨拶と学校の動向



理事長・校長

せき ぐち たか し
関 口 隆 司

平成25年度に初めて女子の卒業生を送り出した後、共学4年目となった平成26年度は、おかげさまで大過なくほぼすべての行事を取り行うことができました。今後も「明朗・勤勉・礼節」の校訓のもと、教育内容の充実に邁進する所存です。

本年4月の新入生は、中学生9名、高校生294名（一貫コース内部進学生を含む）となりました。

そのうち女子は中学生2名、高校生82名となっております。女子の新入生数は過去最多となり、高校1年生は9学級中7学級が共学クラスです。何卒、卒業生の皆様におかれましては、引き続き「新生・目黒学院」へのご支援とご協力を賜りたいと願っております。

また、本年は同窓会総会が行われる年に当たり、今から楽しみにしております。盛会となりますことを心からお祈り申し上げます。

以下簡単ですが学園概況のご報告を申し上げます。

1. 学校行事等

前述の通り、平成26年度の目黒学院では、ほぼすべての行事を予定通り実施することができました。体育祭・陸上記録会や梧林祭も天候に恵まれ、昨年同様生徒は活発に活動しておりました。本年も中目黒駅前商店街主催の「鳴子よさこい祭り」にダンス部の生徒7名と一貫コース2年生34名がそれぞれの企画で参加し、好評を博しました。また昨年度に引き続き、相互交流の協定を締結している福島県飯舘村の役場を訪問し、菅野村長に対して義援金を手交いたしました。

中目黒駅からの通学路にあたる駒沢通りガード下の壁画が在校生・卒業生によって描かれ、1月に完成式典が本校で行われました。式典において、ガードをくぐり本校正門に続く通りは「絆街道」と命名されました。

2. 教職員の異動

教頭の田嶋良一先生が退任され、後任として佐藤正子先生が教頭職を兼任する副校長に就任されました。また、専任教諭の上田一生先生が定年退職されましたが、

上田先生は専任講師として引き続き教鞭をおとりいただいております。専任講師の小川満康先生（国語）、カウンセラーの濱野稔子先生、事務の野村君子先生が退職されました。一方、加藤恵先生（数学）を専任教諭としてお迎えし、吉田美佐子先生をカウンセラーとしてお迎えしました。

現在の専任教員数は68名（専任講師・常勤講師を含む）、専任職員数は12名（カウンセラー2名を含む）となっております。

3. 部活動の状況

関東大会以上に出場したのは、ラグビーフットボール部、空手道部、弓道部、ゴルフ部でした。ご承知の通りラグビー部は、2年連続の全国大会出場をかけて予選決勝に臨みましたが惜敗しました。決勝戦当日は多くの同窓生の皆様から多大なる応援を賜りましたこと、あらためて厚く御礼を申し上げます。今年に入り新人戦ではベスト4止まりでしたが、着実に力をつけてきており、春季大会での好結果が期待されます。一方、空手道部は全国空手道選手権大会に出場しました。

4. 大学進学状況

本校のホームページに本年度の大学進学実績を掲載しております。女子が受験に向かったことにより、進路も以前に比べて多様化いたしました。しかし生徒の大半が大学進学希望であることは変わらず、志望進路実現のために教職員一同なお一層真剣に取り組んでいく所存です。勉学であれスポーツであれ、真摯にかつ夢中で取り組み、自分自身の考え方にこだわりを持った「有言実行」の生徒を今後も育てていきたいと考えております。

5. その他

平成26年度は、経済的に就学が困難な生徒の保護者に対して学費を免除する規定に基づき、5名に対して授業料の全額免除を行いました。規程に基づき授業料を免除した場合には、同窓会からその一部をご援助いただく予定であります。

昨年に引き続き、本年3月にトンガからの生徒を1名受け入れております。現在トンガ人の生徒は合計4名で、高校3年生、2年生が各1名、高校1年生が2名となっております。彼らは全体育育コースに進学し、ラグビーフットボール部に所属しております。それ以外にも外国籍を有する生徒が多数入学、ラグビーフットボール部に入部しており、国際色豊かな同部の2年振りの全国大会出場を切に祈念するものであります。

目黒高校・目黒学院高校 の思い出



前校長

す 藤 のぶ ひろ
須 藤 亘 啓

昭和20年3月28日、第1回卒業式が行われてから70年を経て、同窓会の会員も31,000名を越える程になったと伺いました。また、学校新聞や同窓会だよりを読ませていただき、同窓生の方々が、広く各界で活躍する様子を知ることが出来ました。誠にご同慶の至りです。

12年前、退任のご挨拶を、平成14年6月発行の「桐32号」に記しましたが、目黒・目黒学院高校には、専任教員として16.5年、定時制の非常勤講師として12年、併せて28.5年お世話になりました。この度、寄稿の機会をいただき、様々なことを思い出しました。

同窓会だより「桐」のタイムカプセル欄を見ると、42号に「昭和26年当時の恵比寿駅」、44号に「昭和38年頃の中目黒駅付近」の写真があり、昭和30年前後にタイムスリップしました。創立50周年記念誌「時を航って」には、「昭和28年増築なった実習場」や「30年代生徒の通学の足として大いに利用された都電」の写真もあり、とても懐かしく思いました。

特に、実習場は機械科に在籍していた方々には、忘れることの出来ない機械実習に励んだ教室だったと思います。教材としてのダットサンは、分解も自由に出来ました。

今風に言えば自動車同好会のメンバーが実習工場前に集まって、自動車のメカを勉強し、エンジン音に異常は無い



か、整備作業を終え、実習服を制服に着替え、座席を汚さないように気遣いながら、写真を撮りました。放課後、部活を終えた仲間が集まって撮ったのも、実習場の前の校庭でした。

五三の桐の校章と二筋の白線をつけた制帽、詰襟の学生服姿が懐かしいですね。

目黒高校30年史の卒業生座談会Ⅱには『・・・東映6期

のニューフェイスに受かりました（32年卒業市来宏さん）』、『・・・小林旭と同期だ』などの話題もありました。やがて、マイトガイとして日活で活動を始めた頃です。丁度、担任をしていた時期で、60年前を懐かしく思い出しました。そして渋い演技で知られた「ビルマの竪琴」の安井昌二（30年卒）さんについても書かれていました。学校新聞梧林（15号）には、映画・舞台で名俳優として地道な演劇活動をされている永倉大輔（本名長倉大介）さんが、紹介されていました。

振り返ってみると、私自身も目黒で様々なことを学び、経験を重ねることが出来ました。

60年ほど前、機械工学を学んだ私が不勉強で知らなかった「へら絞り加工」について、へら絞りの意味と、その加工法について教えて下さったのは、関口敏郎校長先生でした。

何事にも興味と関心を持ち、調査し、研究することの大切さを、身に浸みて感じました。

生徒の安全を考えて活動していた山岳部の夏合宿に、初めて同行させてもらった「北アルプスの裏銀座縦走（桐33号）」、二度目の「南アルプスの南部縦走（桐34号）」の体験は、以後の教員生活の中で、実験実習・学校行事など、生徒指導での安全配慮に役立ちました。

ニュージーランド、オーストラリア、アメリカ、カナダ、マレーシア、インドネシア、シンガポール、イギリス、中国等の海外研修は貴重な体験でした。ニュージーランドでの初めてのホームステイで、会話が儘ならず、辞書を片手に筆談を交えて悪戦苦闘した末、別のホームステイ先の英語の先生に通訳を頼んで助けて戴いたことは、忘れられません。

東京都高体連相撲専門部に関係し、部長を務めていた頃、目黒と明大中野の相撲部は頂点を競っていました。相撲



部の活動については、渡邊宏一先生が、梧林19・20号に「目黒には強い相撲部があった」と、詳細に書かれています。

東京都の大会で、目黒の入賞者に賞状を授与したのは勿論ですが、明大中野高校の志賀君（大相撲で活躍した大関栃東、現在の玉の井親方）に、賞状を手渡したこともありました。

目黒学院の所在地が八幡神社氏子の一つである中二北町会に属しているので、秋の礼大祭に生徒が御輿の担ぎ手として参加します（梧林20号）。浅草の下町で育った私は、子供の頃からお祭り好きで御神輿を担いでいたので、中二北町会のお祭りに胸を躍らせました。私は担ぎませんでしたが、一緒に八幡神社にお参りして、町内を巡りましたことも忘れられません。



私と目黒学院との絆で、最も大切にしているのは、昭和56年8月15日の消印のある関口敏郎理事長から戴いた暑中見舞いの葉書です。「・・・晴天に恵まれ、スイスの山々とオーストラリア（チロール）の村を訪れた・・・」ことなどが書かれていました。そして、末尾にこう書き加えられていました。「妙なことを申しますが、もし貴殿が定年になられ、そのお気持ちがあつたら、また、目黒に来て下さいね・・・」とありました。自分の都合で急に目黒高校を離れて出身校に移り、大変、ご迷惑を掛けてしまった私の、先々のことまで、考えて下さっていたことに、心打たれました。感謝の言葉ありませんでした。

◆歴代同窓会会長から◆

創立70周年の記念号として、本会の発展にご尽力いただいた歴代会長の代表の皆様から、メッセージをお寄せいただきました。

久我さんと依田さんには、本誌編集担当がインタビューを行い、お答えいただきました。



第7・9代会長

く が しげさぶろう
久 我 茂三郎

（昭和20年 3月卒）

・現在、お歳はおいくつでしょうか？

88歳になります。

・卒業年は、何年ですか？

昭和20年、終戦の年です。

・当時の母校の状況はいかがでしたか？

学徒動員時代で、学校全体で4年生の時には、授業は全くありませんでした。授業の代わりに軍需工場で働いて

いました。

田中航空計機という軍需工場で、飛行機のメーターを製造していました。

入学した頃は、1クラス30名ぐらいで、仲の良い3人組で富士山を登ったことが、懐かしい思い出です。

・同窓会とのかかわりは？

会長職を1965年と1967年～1970年の5年間、務めました。

・その後は今日に至るまで、

長年にわたって相談役として関わっていただいていますね。

はい、私が会長の時に初めて、同窓会の総会・懇親会を雅叙園で行いまして、その後は、都内の有名ホテル等で開催するようになりました。

・在任中、ご苦勞されたことは何でしょうか？

初めて集まりをもった時、役員がなかなか集まらなくて、困りました。ある時などは、「同窓会とは何ぞや」と言って、ひやかし半分に来て、その後は全く来なかった人もいました。

いやな思い出もしました。

・在任中、印象に残っていることは何でしょうか？

ある年の同窓会総会の折、「久我先輩ではないですか？」と声を掛けられたことがあります。「そうだよ」と答えたら、「私は一級建築士です。」と、自己紹介されました。

その時のご縁で、後に私の家を造ってもらいました。

良い出会いが出来ました。その方とは、今でもお付き合いを続けています。

・在任中、特に思い出に残っていることは何でしょうか？

雅叙園で総会・懇親会を行った時、途中、トイレに行くと後輩達が大きな声で話しているのが、聞こえてきました。

「こんな凄い処で食事が出来るなんて……」と。

卒業してまだ間もない後輩なのか、喜んで話をしてました。その声を聞いて、私は、「やっぱりああ、ここで開催して良かったなあ」としみじみ思い、嬉しかったです。

今でも忘れない思い出です。

・今後、同窓会に期待すること、要望することは何でしょうか？

同窓会の委員会等に多くのOBが参加頂けるよう、在任中は常に体育部や各部に声を掛けて来ましたが、なかなか思いが伝わらなかった。特に総会・懇親会の折には、各クラブを顕彰したかった。

これからは、同窓会活動に少しでも多くの同窓生に参加してもらい、後輩のためにも大いに同窓会を盛り上げてほしいと、強く思っています。



・後輩達へのメッセージを是非、お願いします。

“**勇氣ある撤退**” 私の体験を語りたい。

私は、父が経営する「久我製作所」(医療用ベット製造)を引継ぎました。文京区本郷の狭い土地の町工場だったが、生産をもの凄く上げることが出来ました。

それは、母校在学中に製図を習ったお陰なんです。商売にとっても役に立ち、母校にはとても感謝しています。

部品の図面をどんどん書いては、それを外注に10軒、20軒と廻していく。そうやって、私のところで生産していたんです。他の業者が不思議がるほど、業績を上げていったものです。

しかし、昭和55年頃から時勢が段々と変化してきて、昭和59年に廃業することを決意しました。お得意様の中には、いやみを言う人もいました。でも、私は、工場を潰したのではなく、閉鎖したと思っています。色々な状況を判断しての、結果でした。

今でも“**勇氣ある撤退**”をしたと、自負しています。

58歳の時であった。幸いにして、同業の会社に職を得ることが出来て、その後10年間勤務しました。後輩の皆さんも、激動のこの時、苦しいことがあっても「グッ」とこらえて頑張ってください。

最後に、母校に「茶道部」を創りなさいと言いたい。茶道というのは、女性が主役になるからね。本当は、男が主役のものなんだけれど、現実には女性が教養のためにやっている。そこに、男性が入って凄く健やかになる。そして、優しさ、思いやりが出てくる。私自身も茶道をやっているし、体験があるから、いいもんだなあと思っています。強いばかりが男じゃないからね。優しさがなければ駄目。

是非、母校に茶道部を創ってほしいと思っています。

現在は、マンションを管理し、長男夫婦と同じマンションで暮らしています。体力を回復するように近くのデイサービスでマシントレーニング、太極拳を行っている今日この頃です。

◆母校見学会の開催◆

同窓生の皆様！ 本年、総会・懇親会の開催前に母校の“見学の集い”を下記のとおり企画いたしました。

大きく様変わりした中目黒駅・恵比寿駅周辺。友と語り合いながら渡った目黒川。そして、我が栄へゆく目黒学院！10代の青春が蘇ると存じます。当日は、母校の教職員の皆様が、私たちのために学校内をご案内して下さいます。また、皆様の思い出、ご活躍もお聞かせいただきながら、総会・懇親会開催前のひととき、有意義な時間がお過ごし出来ればと考えております。

— 記 —

○日 時：平成27年7月25日(土) 午後3時～4時

○集合場所：目黒学院高等学校1階事務室前

○その他：学校見学に参加希望される方は、総会・懇親会の出席葉書にて7月18日までにお申し込みください。

依田登志男さんは、第13代の同窓会会長として、昭和51年から昭和63年まで在任されました。

東京急行電鉄・白馬観光に昭和20年9月～昭和63年9月まで勤められた後、昭和63年10月～平成5年までは、母校の常任理事として、その後、平成5年～平成19年まで日大二高で理事待遇として奉職されました。



第13代会長

よ だ と し お
依 田 登志男

(昭和22年 3月卒)

・本日はよろしくお願いします。現在、お年はおいくつでしょうか？

86歳になります。

・卒業年は、何年ですか？

昭和22年3月、目黒工業学校第二本科(夜間部)を卒業。第二本科の3期生です。

・当時の母校の状況はいかがでしたか？

校舎は出来たばかりで本当に小さく、グラウンドも狭かった。

・当時の授業の状況は、どんなでしたか？

当時は、新丸子に住んでいて昼は会社(軍需工場)に勤め、夜、学校に行っていた。最初の1年はみっちり勉強をやった。2年生の2学期までは何とかこなしたが、その後は、戦争が激しくなってきた学校で授業はほとんど休んでいた。学校から会社へ直行。軍需工場では、ゼロ戦の機関銃の発射装置や爆撃用の開閉機の検査を行っていた。川崎の新城にあった東京中島電気株式会社で働いていた。

会社は夜学を認めてくれて、1時間早く帰してくれた。昭和19年11月1日、東京でB29の初空襲があり、それ以降は夜、授業があっても、空襲警報があると授業をやめて帰ってきた。先生方も来なくなったりして、授業にならなかったのが随分あった。機械科だったけれども、何か機械を操作したりいじったりすることはなかった。3年生ぐらいからヤスリで削ったくらい。2年生ぐらいから図面の見方を勉強していたので、会社に入ってから役に立った。

・在学中、最も印象に残っていることはなんですか？

当時の授業では、軍事訓練があった。中尉の先生が来ていて非常に厳しかった。1年生の時に野営があって、秋には評価がある。ほとんどの学校は“良”だったが、目黒の第二本科は“やや優良”だった。その時は嬉しかったね。教官も非常に喜んでいて。「君たちの努力だ」と。そういう思い出がある。

終戦後、母校での最後の2年間は、英語と木田先生の講義が印象に残っている。木田先生には、卒業後も大変、お世話になった。私たち夫婦の仲人も木田先生です。

・会長在任中、ご苦労されたことは何でしょうか？

会長を昭和51年から昭和63年まで務めた。まあ、苦労っていうのは……私の時に、同窓会財政が逼迫してきて、毎年開催していた総会・懇親会を2年ごとの開催に変更した。みんな一生懸命にやってくれたから、私らはそんな苦労もなかった。

・後輩達へのメッセージを是非、お願いします。

目黒の生徒はね、外で割合真面目だった。真面目にいれば必ず成功することを言いたい。

・終戦直後からすぐに東京急行に入られたんですね。

昭和20年8月、終戦となりこれまで勤めていた会社が潰れたので、9月からは東京急行に就職した。目黒在学中の3年生の時である。

以来43年間、昭和63年まで東急電鉄でお世話になった。

私は山が好きだったので、休みになると山へ行っていた。それで東急では“山岳部”を作った。その後、病気もしたが、東京全体の宣伝に関わっていった。そんな時、八方尾根の白馬にロープウェイを引きたいとの会社の方針が示された。そこで、社内で山を知っている私が呼び出された。

昭和33年1月17日、調査隊の一員となった。当時は、中央線、大糸線とも1日、何本も走ってなかった時代。もちろん、中央道もまだ出来ていなかった頃である。そして、その年の12月に、ロープウェイが完成。白馬観光開発が開業となった。そこから私の全力投球が始まった。営業は私1人だった。

土・日はお客が来るが、平日はガラガラのロープウェイだったので、東急観光に企画を持ち込んで客集めをさせた。そしたら旅客収入が上がっていく。役職も昭和52年には、常務取締役になった。並行して列車の“増結”も訴えた。私は国鉄（JRの前身）本社の旅客課長に話すチャンスを見つけた。そしたら私の鉄道に対する情熱を感じ取ってくれた。昭和36年10月1日からダイヤが改正されるので、その時はどうだろうとの返事をもらえた。“増結”が現実となり、旅客収入がすごく伸びた。その後、当初3両編成の車両が10両編成となり、2編成入ってきて、改正の度に、ダイヤがどんどん増えていった。白馬観光が凄い会社に発展した。その結果、当時（昭和63年）、白馬観光のロープウェイとリフトは一基あたりで日本一の売り上げを達成する事ができた。そこまで持っていった。おかげで今でも東京急行にはお世話になっているけれど……

そんな形で人生を送りました。

・長時間のインタビュー、誠にありがとうございました。

武田広さんは、本会会長を昭和41年に第8代会長として1年間務められました。

弓を手にして60年



第8代会長

たけ だ ひろし
武 田 広

(昭和33年 3月卒)

昭和30年4月目黒高校に入学し部活動として、弓道部に伊澤徹君と入部しました。弓道はやった事もなく、不安が多かったです。

弓道部は宮田先生の指導で3年生1名、2年生3名、新入生7名の部員でした。宮田先生には、弓道の基本である、射法八節の動作を指導受けました。射法八節とは、「足踏み」「弓構え」「取りかけ」「打越し」「引分け」「会」「離れ」「残心」であり、それぞれの動作が連携しているためおろそかに出来なかった。「足踏み」は自分の身長約半分、両足を開き足の角度は60度とする。「弓構え」は体の中央に弓を構えて両肩があがらないように弓を正面にし、「打越し」左右に「引分け」「会」に至り、左右のバランスを取り「離れ」となり、一本の矢が発せられ「残心」となる。これらを何度もくり返し指導を受けました。

昭和31年6月に全国高校弓道大会都予選会有り、2年生のチームとして参加しました。が見事負けました。

32年都予選には13校26チーム参加し第2位となり、東京都代表となり全国高校弓道大会の出場権を取りました。

第2回全国高校弓道大会は8月9日より11日、山口県警察体育館弓道場において開催、目黒高校より伊澤徹、片平和勇、私の3年生、相澤勝己2年生の4名が出場しました。団体戦は、3人で各人4射計12射的中制です。目黒は6中で予選敗退しましたが、個人の部で、伊澤徹選手が10位と私が技能優秀賞となり、思い出ある全国大会でした。

高校時代より大学（日本大学）弓道部で活躍し、卒業後は大学弓道部のコーチとして、後輩の指導に精進しました。40年代には、財団法人全日本弓道連盟事務局員として、日々弓道と接し、60年代には事務局の局長として、全国都道府県の弓友と接し、日々まさに弓道一筋の人生を送りました事は、我ながら満足しております。

母校同窓会70年にあたり、私の弓道人生の一部を書き残させてもらいました。

母校クラブ紹介

◆弓道部創部60周年◆

弓道部コーチ

たか ぎ えい じ
高 木 英 二

(昭和50年 3月卒)

本年我が弓道部は、創部60周年を迎えました。昭和28年4月に同好会として宮田嘉寿先生を中心に有志で発足。昭和30年4月弓道部を創設。昭和32年(第2回)インターハイに初出場して以来、関東大会、全国選抜大会、関東個人大会、国体と多数の出場を果たしています。

ここで残念な訃報ですが、30年の長きにわたり、弓道部の顧問を勤めていただい工藤徹先生が、平成26年1月3日にご逝去されました。先生は、定年退職後も夏合宿や部員の指導にご尽力され、本校弓道部の一番の功労者であられました。

謹んでご冥福をお祈り致します。

現在顧問は、奥山直弥先生、蕪山良隆先生の2名です。昨年は、久しぶりに関東大会(神奈川県厚木市)に出場しました。

今後も70周年、100周年を目指して努力してまいります。



筆者は写真最後列左から3番目

◆大壁画 地域に貢献!◆

正門を出て右へ中目黒駅に向かうと、すぐ駒沢通り高架下のトンネルに入る。目を見張る大壁画!

トンネル内を明るくとの地域の方々の要請が目黒警察にあったとのこと。

「この壁画は目黒区、目黒警察、目黒防犯協会、そして目黒学院とで協定を交わし、中目黒の環境美化活動の一環として制作された」(梧林第21号より)ことを知りました。目黒学院の芸術科美術の米本先生を中心に、在校生が動いた。デザインは本校在校生と卒業生。書き上げたのはラグビー部のメンバー、在校生、教職員、事務の方、目黒警察の方も交えてとのこと。

にぎやかに書かれたのが目に浮かびます。片面には満開の桜とラグビー部員の勇姿。もう片面には母校の校舎が。力作です。ぜひ、近くに来られましたらご覧下さい。



賛助会費の納入をよろしく
お願いいたします!
賛助会費: 一口1,000円

賛助会費は一口1,000円で、口数は任意となっております。お志のある方は、複数口のご協力をよろしくお願い申し上げます。また、財政面で安定した本会運営を行っていくために、多数の会員諸兄のご協力をお願い申し上げます。

※納入にあたっては、同封の郵便局用「払込通知票」をご使用のうえ、お振込みください。

東邦工業株式会社

Toho Industries Co., Ltd.

代表取締役 土方国任(昭和31年3月卒)
Hijikata Kunitaka

NC自動旋盤、カム式自動旋盤
技術志向の青年大募集!!

ホームページ: <http://www.toho-indust.co.jp/>
E-Mail: hijikata.k@toho-indust.co.jp

本社・工場 〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-12-3
TEL: 03-3490-1311(代) FAX: 03-3490-3848

横浜工場 〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町954
TEL: 045-533-4340 FAX: 045-533-4370

◆クラス会開催報告◆

いし わたり ひろ み
石 渡 博 巳
(昭和32年 3月卒)

第30回クラス会を平成26年11月8日(土)午後12時より2時20分まで、「旭鮎総本店、恵比寿ガーデンプレイスタワー38階店」において開催しました。

今回の参加者は10名で、昨年より2名少なくなりました。

私達のクラスも高齢になり、身体の都合悪い人達も出てきています。また、大変残念ではありますが、逝去される方もおり、参加者も年々少なくなり淋しさが増すばかりです。

当日は、まず再会を祝して内山君の音頭で乾杯、その後、それぞれから近況報告があり懇談へと移りました。

話は盛り上がり、懇談は尽きることなく進み、次回も元気で再会することを約束して、記念写真を撮ってお開きとなりました。



筆者は写真前列の右から2番目

法律相談無料(夜間・土日休日もご対応)

お電話はこちらへ **044 (211) 4401**

【主な取扱案件】

交通事故被害・後遺症 債権回収・企業法務
相続手続・遺言書作成 顧問相談 労働問題
男女問題・離婚 成年後見 刑事事件など

川崎パシフィック法律事務所

代表弁護士 種 村 求 (横浜弁護士会所属)

事務局長 大 川 信 也 (昭和57年卒)

川崎駅から徒歩1分

ホームページ
メール問合せ

川崎パシフィック **検索**
info@kawasakipacific.com

◆恒例「親子二代卒業生」ご紹介◆

中 山 和 美 (父) 昭和59年3月卒
瑛 大 (息子) 平成27年3月卒

平成27年度

同窓会委員会の開催について

平成27年度同窓会委員会を、下記のとおり開催いたします。

各クラスの委員の方は是非、ご出席ください。

特に、平成25年・26年・27年に卒業された、各クラスの正・副委員の皆さんは、初めての委員会ですので欠席のないよう、お願いいたします。

記

- 日 時 平成27年6月27日(土) 午後2時～
- 場 所 目黒学院高等学校内 会議室
- 議 題 ①役員改選の件
②平成27年度同窓会総会・懇親会開催の件
(報告事項)
①平成26年度決算報告の件
②平成27年度予算の件

SOWA
ARCHITECTS & ENGINEERS

55th
Anniversary

人のため環境のために 創造し続ける集団を目指して

FOR THE PERSON & THE ENVIRONMENT

「人間のために」——。

弊社は創立以来、一貫して「人間のために」をテーマとして精進してまいりました。人のため環境のために創造し続ける設計集団を目指して、社会的存在としての自らの立場を自覚し、与えられた使命を実現するため持てる能力を最大限に発揮します。

私たちの存在は経済的な力で言えば小さく、大きく社会を変えることはできません。

しかし、「まちづくり」やそこで生活する人に景観として、空間体験として、与える影響はかなり大きい。その大きさに対して誇りを持ち、力強く前進してゆきます。

一級建築士事務所

株式会社 **相和技術研究所** 顧問：市川康憲
(昭和42年卒業)

本 社 〒141-0021 東京都品川区上大崎2丁目18番1号
TEL 03(5740)6713番(直通) FAX 03(5740)6683番

<東北支社>

●仙台事務所
●青森事務所

<関東支社>

●千葉事務所
●水戸事務所
●多摩事務所
●神奈川事務所

<関西支社>

●大阪事務所
●和歌山事務所

平成26年度決算報告書

平成26年4月 1日から
平成27年3月31日まで

(収入の部)		(単位：円)		
科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要	
同 窓 会 費	2,946,300	2,946,300	818名分	
入 会 金	462,000	462,000	231名分	
賛 助 会 費	500,000	590,000	174名分	
総 会 会 費	0	0		
寄 付 金	0	0		
雑 収 入	45,000	25,292	会報掲載広告代及び預金利息	
当 期 収 入 合 計	3,953,300	4,023,592		
前 年 度 繰 越 金	4,694,097	4,694,097		
収 入 合 計	8,647,397	8,717,689		

(支出の部)		(単位：円)		
科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要	
総 会 会 費	0	0		
行 事 費	0	0		
通 信 費	0	0		
雑 費	0	0		
会 議 費	139,000	38,116		
役 員 会 費	133,000	23,251	出席者食事代	
委 員 会 費	0	9,000		
通 信 費	6,000	5,865	開催通知郵便料	
補 助 費	380,000	310,000		
部・同好会補助	350,000	280,000	在校生部活動補助	
文 化 祭 補 助	30,000	30,000	梧林祭の祝い金	
事 務 費	378,000	372,655		
人 件 費	255,000	210,000	役員手当他	
事務消耗品費	38,000	8,365		
交 際 費	60,000	134,240	謝礼・慶弔費	
雑 費	25,000	20,050	賛助会費振込手数料	
会 報 費	1,922,200	1,721,325		
会報『桐』印刷費	275,400	252,288	14,600部	
振込用紙及び印刷費	86,400	76,853		
宛名用紙及び印刷費	86,400	122,964		
封筒・封入作業他	243,000	215,188		
発 送 費	1,230,000	1,053,168	郵便料	
雑 費	1,000	864		
奨 学 金	400,000	400,000	在校生奨学金3名分	
予 備 費	100,000	0		
当 期 支 出 合 計	3,319,200	2,842,096		
次 年 度 繰 越 金	5,328,197	5,875,593		
支 出 合 計	8,647,397	8,717,689		

〔特別積立金〕		(単位：円)	
保 管 種 別	本年度末	前年度末	
定 期 預 金	7,000,000	7,000,000	

平成26年度決算報告について

当初予算においては、単年度収支で63万円の収入超過を予定して開始されました。収入は予算に対してやや増加し、支出は極力経費の節減に努めたことにより、予算に対して47万円の減少となりました。
この結果、単年度収支で118万円の収入超過となり、次年度への繰越金は587万円となりました。

1. 収入の部

同窓会費、入会金は予算どおりの収受となり、賛助会費は予算比で若干の増加、雑収入は若干の減少となりました。
この結果、収入合計では、予算に対して約7万円の増加となりました。

平成27年度予算について

平成27年度収支予算は、平成27年度の事業計画と平成26年度の収支実績とを勘案して編成しました。

1. 収入の部

同窓会費は809名、入会金は309名を収納予定人員と積算し、また賛助会費は前年の実績を勘案して延べ500口を収納予定として予算計上しました。
本年度は、総会・懇親会を開催しますので、総会会費及び寄附金収入を、過年度実績に基づき予算計上しました。

平成27年度予算書

平成27年4月 1日から
平成28年3月31日まで

(収入の部)		(単位：円)		
科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	
同 窓 会 費	2,913,900	2,946,300	△ 32,400	
入 会 金	618,000	462,000	156,000	
賛 助 会 費	500,000	500,000	0	
総 会 会 費	340,000	0	340,000	
寄 付 金	130,000	0	130,000	
雑 収 入	75,000	45,000	30,000	
当 期 収 入 合 計	4,576,900	3,953,300	623,600	
前 年 度 繰 越 金	5,875,593	4,694,097	1,181,496	
収 入 合 計	10,452,493	8,647,397	1,805,096	

(支出の部)		(単位：円)		
科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	
総 会 会 費	1,320,000	0	1,320,000	
行 事 費	1,220,000	0	1,220,000	
通 信 費	80,000	0	80,000	
雑 費	20,000	0	20,000	
会 議 費	249,000	139,000	110,000	
役 員 会 費	189,000	133,000	56,000	
委 員 会 費	50,000	0	50,000	
通 信 費	10,000	6,000	4,000	
補 助 費	380,000	380,000	0	
部・同好会補助	350,000	350,000	0	
文 化 祭 補 助	30,000	30,000	0	
事 務 費	437,000	378,000	59,000	
人 件 費	332,000	255,000	77,000	
事務消耗品費	20,000	38,000	△ 18,000	
交 際 費	60,000	60,000	0	
雑 費	25,000	25,000	0	
会 報 費	1,923,500	1,922,200	1,300	
会報『桐』印刷費	375,100	275,400	99,700	
振込用紙及び印刷費	81,000	86,400	△ 5,400	
宛名用紙及び印刷費	129,600	86,400	43,200	
封筒・封入作業他	226,800	243,000	△ 16,200	
発 送 費	1,110,000	1,230,000	△ 120,000	
雑 費	1,000	1,000	0	
奨 学 金	400,000	400,000	0	
予 備 費	100,000	100,000	0	
当 期 支 出 合 計	4,809,500	3,319,200	1,490,300	
次 年 度 繰 越 金	5,642,993	5,328,197	314,796	
支 出 合 計	10,452,493	8,647,397	1,805,096	

2. 支出の部

予算計上したすべての経常支出大科目において節減努力した結果、予算対比で47万円の減少となりました。
なお、事務費の交際費が予算比で大幅に増加したのは、現職役員の逝去に伴う弔慰金等の支出によるものです。
在校生に対する奨学金支出は、予算どおりの40万円を執行しました。

〔会計監査報告〕

私たちは、平成26年4月1日から平成27年3月31日までの平成26年度における会計監査を行い、次のとおり報告する。
会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて監査を行った結果、公正かつ相違ないことを認めます。

平成27年4月28日 会計監査 石 渡 博 巳
 会計監査 香 取 芳 則

2. 支出の部

本年度の事業計画は、①総会・懇親会の開催、②同窓会だより「桐」の発行、③在校生の部・同好会に対する補助、④在校生に対する奨学金支出等が主なものです。
例年と異なる点は、総会・懇親会の開催に伴う行事費予算の計上です。過去2年間、本年の総会・懇親会開催に向けて繰越金の蓄積を行い、総会・懇親会の行事費予算は前回開催費用に経費上昇分を加え、予算計上としました。
この結果、次年度への繰越金は564万円を予定し、単年度収支では23万円の支出超過予算となりました。

同窓会賛助会費 納入者のご芳名

平成26年度分の賛助会費として、本年3月末までに納入のあった方は、
下記の174名の方々です。ここに、謹んでご報告申し上げます。

★印は新規納入者

ア★赤羽昇	エ 遠藤尚之	コ 小岩井晃	タ 高野昌弘	ハ★橋本隼弥	ム 村木開
秋本康夫		巨海貢	高橋弘樹	長谷川洋一	村山栄助
浅野進	オ 大河原行雄	小嶋靖夫	高橋弘樹	幡鎌好彦	
安達富夫	大滝岩雄	★小西敏明	高畑哲男	★濱川毅	モ 森江一郎
★天野雄次郎	大谷一男	小宮一秀	滝口勇	濱崎弘瑠	★森岡新司
★荒川晴紀	大渕文夫	★小山秀典	滝澤国夫		
有我洋	大山翔平	★近藤彰宏	竹井実	ヒ 肥沼紘希	ヤ 矢内敏郎
安藤龍	大山靖郎		武田敬	土方国任	矢川福太郎
安藤礼	小川直巨	サ 齋藤浩	★武田賢治	平井洋	★屋代俊晴
	荻堂盛久	齊藤泰之	★竹沢和明	平川寿春	安田憲二
イ 飯村晴夫	奥野和夫	五月女進一	但野澄夫	廣木正和	山内慶次郎
五十嵐正宏	小澤幸二	★坂上秀雄	田苗公己		山口邦治
石井峻伍	押谷美和	坂本隆徳	田中道敏	フ 藤兼英夫	山崎俊男
石渡博巳	★押野巳佐男	佐藤明朗	★田中保雄	藤野保	★山村洋史
市川清	小野寺正志	佐藤二郎	田中勇一	藤平雅司	山本明秀
市川康憲		狭山正則	田邊有城	藤森琢磨	山本大介
市川善久	カ 柿ノ迫国夫		★谷川欽一		山森敦
★伊藤勢一郎	★角田文夫	シ 志賀政美	榊敏彦	ホ 星野信男	
★伊藤富斎	柏木幹也	宍戸隆一		星野充範	ヨ 吉野源訓
稲葉明夫	香取芳則	宍戸優仁	テ 出水進擴	洞口芳彦	吉田達夫
稲葉孝司	★金子昌広	柴田治男		本間徹也	
★井上岳彦	金子泰将	★嶋田一成	ト 東条諭二郎		ワ 分野和昭
★井上俊夫	金子栄一	清水健志	富樫良一	マ★前田洋平	
猪瀬誠	神谷守	蕭欣志	富田大信	舛巴熙	
伊福尚登	川瀬年茂	白石郁男	★友井秀俊	松本誠治	
岩井宏樹			★巴孝介	丸山忠雄	
岩間高志	キ 木全繁太郎	ス★須賀義則		★丸山元吉	
	木全伸隆	杉沼譲	ナ 中村重和		
ウ★宇田川彰	北根益巳	杉本法男		ミ 三神和夫	
宇藤雄一	北村徳章	鈴木茂樹	ニ 西村俊祐	★三澤宏延	
梅沢賢治	木村義男	鈴木茂之	西山友一郎	水柿隆夫	
★浦島祐一	喜友名朝典	須田浩稔		水谷清雄	
		須藤昭男	ネ 根城裕典	宮下重雄	
エ 江口敦朗	ク 久我茂三郎				
江原岳	熊倉寛	ソ 草敬三	ノ 野村有	ム 村石圭樹	計174名
★遠藤司	栗田幸之助	外山昇		村井稔	(内新規納入者33名)

創立70周年記念 平成27年度同窓会 総会および懇親会のご案内

本会創立70周年を記念する、同窓会の総会・懇親会を、3年ぶりに右記の通り開催いたします。

今年の総会・懇親会は、男女共学後初の、女性会員も参加が予定されております。役員一同、これまで同様にご出席いただいた会員の皆様にご満足いただけるよう、恩師や会員との親睦を深める楽しい懇親会を開催すべく、万全の準備をいたしております。

会員の皆様におかれましては、クラスメイト、先輩、後輩へと共々に幅広くお声を掛け合って、多数のご参加をお待ちしております。

なお、当日はご同伴でのご出席も大歓迎いたします。多数の会員皆様のご出席を、心からお待ち申し上げます。



※総会・懇親会への出席連絡は、同封の葉書をご利用ください。また、葉書投函後にご都合が悪くなった場合には、同窓会ホームページの「お問い合わせ・ご意見フォーム」からご連絡ください。
URL: <http://www.meguro.ac.jp/Kiri/>

なお、住所等の変更もなく欠席の方は葉書を投函しないでください。

記

- 日 時 平成27年7月25日（土）午後6時から
○場 所 新宿ワシントンホテルビル内宴会場
「ウエストシティホール&ウエディングアイ」
本館2階「クローバー」
（新宿駅南口改札口より都庁方面 徒歩8分）
○電 話 03-3349-0011
○交通アクセス
J R 新宿駅南口下車、小田急線・京王線・都営新宿線
（京王新線）・東京メトロ丸の内線新宿駅下車、
都営大江戸線都庁前駅下車
○会 費 平成24年3月～27年3月卒 2,000円
平成15年3月～23年3月卒 3,000円
平成14年3月卒以前 5,000円
※同伴出席者の会費は、本人会費の半額とさせていただきます。
○内 容 着席スタイルのパーティ形式
アトラクション（大道芸）
表彰（親子二代卒業生）
ビンゴゲーム（景品を多数用意）

新宿ワシントンホテルビル内宴会場 「ウエストシティホール&ウエディングアイ」

新宿駅 電車・路線別のご案内

地下道（京王モール アネックス～ワンデーストリート）をご利用いただくと便利です

●JR線

JR各線から南口改札を出て、右手「高層ビル街方面・都庁方面」へ進みエスカレーターを下りて京王モール アネックス～ワンデーストリートへ
※南口改札口への便利な車両
山手線・総武線・中央線：代々木・東京方面寄り車両
埼京線・湘南新宿ライン：池袋大宮方面寄り車両

●小田急線

南口改札を出て、右手「高層ビル街方面・都庁方面」へ進みエスカレーターを下りて京王モール アネックス～ワンデーストリートへ
※南口改札口への便利な車両
急行（快速急行）：4号車・6号車
準各駅停車：4号車・8号車

●京王線

府中・調布方面からは笹塚で京王新線（都営新宿線）に乗り換えると便利です
新都心改札口を出て、正面のワンデーストリートへ
※新都心改札口への便利な車両：1号車
※特急は笹塚駅に停車致しませんのでご注意ください

●都営新宿線（京王新線）

新都心改札口（6～8番出口方面）を出て、正面のワンデーストリートへ
※新都心改札口へ便利な車両：1号車

●都営大江戸線

降車後、のりかえ表示「京王線・JR線・小田急線方面」改札口を出て、8番出口方面へ進みワンデーストリートへ
※京王線・JR線・小田急線方面改札口への便利な車両：8号車

●丸の内線

降車後、のりかえ表示「都営新宿線・小田急線・京王線・JR線・小田急百貨店方面」から西改札口を出て、JR新宿駅西口前を通過し、京王モールから京王モールアネックス～ワンデーストリートへ
※西改札口への便利な車両 池袋方面から：前方車両 萩窪方面から：後方車両